栂神社　（仙隠峯）

神社の由来は、残されている棟札によると、安政５年（1858）に木山牛頭天王社として建立され、祀られていたが、その後、明治時代（年代不明）、登賀神社、疝痛山止賀神社と名称が変わり、明治40年（1907）に現在の栂神社となった。

稲田姫伝説によると、母君が姫君を探しあて、会見された場所が会見郡（現在の日南町）となったと言われている。日野郡「船通山」の大神木の栂の分霊木を栂神社に持ち帰ったと古書にある。

古老の話によると、昭和50年（1975）代まで樹高30メートル余りで直径33センチメートルの栂の老木が社殿の横にあったという。

平成14年１月社殿が老朽化し、元あった場所から地権者尾崎家のご協力により現在地に移転された。

境内には牛頭天王、荒神、穐葉（秋葉）の三神を合祀した相殿がある。

三神の相殿

栂神社

祭司は大鳥居神社宮司吉田武章、例祭日は毎年七月第一日曜日、総代長は鳥飼栄である。「仙隠の栂さん」と親しまれ疝気の神様として霊験あらたかであると信仰されている。